

TOKYO 2020 PARALYMPIC

TORCH
RELAY

FLAME LIGHTING FESTIVAL

FUKUSHIMA

2021.8.12-8.15

東京 2020 パラリンピック聖火リレー
聖火フェスティバル

福島県記録写真集

CONTENTS 目次

全体概要	02
------	----

1 福島県パラリンピック聖火フェスティバル

浜通り 種火起こし	06
浜通りの火 採火式	13
中通り 種火起こし	15
中通りの火 採火式	30
会津 種火起こし	32
会津の火 採火式	40
県内集火・出立式	42
福島県 採火者・聖火ランナー	44

2 福島の思いをつないで

都内集火式	47
全国集火式	47
開催都市内聖火リレー	48
パラリンピック開会式・閉会式	48

OVERVIEW 全体概要



主催	福島県
共催	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
日程	<p>福島県パラリンピック聖火フェスティバル (2021年8月12日(木)～8月15日(日))</p> <ul style="list-style-type: none"> ●8月12日(木) 浜通りの火 採火式 : 浜通り地方13市町村の種火から浜通りの火を採火 ●8月13日(金) 中通りの火 採火式 : 中通り地方29市町村の種火から中通りの火を採火 ●8月14日(土) 会津の火 採火式 : 会津地方17市町村の種火から会津の火を採火 ●8月15日(日) 県内集火・出立式 : 3つの火を集火し「福島県の火」が誕生 全国集火式が行われる東京へ送り出す
日程(全国)	<p>2021年8月12日(木)～2021年8月24日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●8月12日(木)～8月16日(月) 43道府県聖火フェスティバル ●8月17日(火)～8月20日(金) 競技開催都府県聖火フェスティバル(静岡・千葉・埼玉・東京) ●8月20日(金) 全国集火式 ●8月21日(土)～8月24日(火) 開催都市内聖火リレー

パラリンピック聖火リレーとは

パラリンピック聖火リレーは「パラリンピック聖火はみんなのものであり、パラリンピックを応援する全ての人の熱意が集まることで聖火を生み出す」という国際パラリンピック委員会(IPC)の理念に基づいて開催されます。

聖火リレーで用いられるパラリンピック聖火は、パラリンピック発祥の地であるイギリスのストーク・マンデビルで開催

国内の複数箇所で開催される炎から生み出されます。

炎は、人々がパラリンピックを応援する熱意(スパーク)の表れとされ、実際の炎に限らず、SNS等を活用したデジタルの炎も認められています。こうして各地で採火された炎は開催都市で一つに集火され、パラリンピック聖火として、リレーの形で開催都市を巡ります。

東京2020パラリンピック聖火リレーコンセプト

Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。

東京2020パラリンピック聖火リレーは「Share Your Light (英語) / あなたは、きっと、誰かの光だ。(日本語)」をコンセプトに、目前に迫ったパラリンピックへの期待や祝祭感を最大限に高めます。

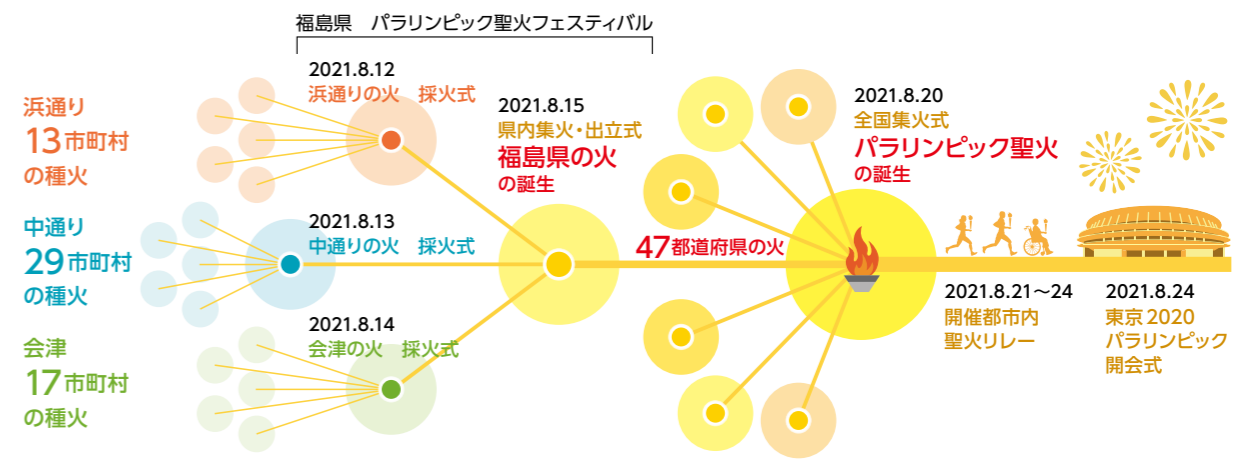
これは、「新たな出会いから生まれる光を集めて、みんなが調和し、活かしあう社会を照らし出そう。」という思いを端的に表しており、また、パラリンピック聖火リレーを通じて、多様な、そして社会の中で誰かの希望や支えとなっている光(人)が集まり、出会うことで、共生社会を照らす力としようという想いを表現しています。

出典 東京2020組織委員会HP

東京2020パラリンピック聖火リレーの流れ

- 1st : 日本各地に熱意の火が灯る。**
パラリンピックを応援する人々の「熱意」は、日本各地やイギリスのストーク・マンデビルで行われる採火式で「炎」にその姿を変え、さまざまな催しとともに、来る東京2020パラリンピックを盛り上げます。こうした、日本各地で行われる東京2020パラリンピックを応援するための採火イベントや、学校や病院、パラリンピックゆかりの地などの炎の訪問イベント(聖火ビジット)は、総称して「聖火フェスティバル」と呼ばれます。「採火」「聖火ビジット」を経た炎は、各地を「出立」し、東京へ向けて送り出されます。
 - 2nd : パラリンピック競技開催都市を、光り輝く炎が駆け抜ける。**
埼玉県、千葉県、静岡県、東京都の競技開催都市では、それぞれの県にて、採火式や聖火ビジット(実施は任意)に加えて、聖火リレーも開催します。そして、3人1組となったパラリンピック聖火ランナーが駆け巡った後、それぞれの県から東京に向けて「出立」します。そして、競技開催都市として東京都でも同様に採火を行い、東京都の火として聖火リレーを実施します。
 - 3rd : パラリンピックを応援する全ての熱意が一つに。東京2020パラリンピック聖火が生まれる。**
日本各地で採火された東京2020パラリンピックを応援する炎は、各地での「出立」を経て、開催都市・東京に旅立ちます。東京2020パラリンピック競技開催都府県(静岡県、千葉県、埼玉県、東京都)で採火・出立された炎と、ストーク・マンデビルからの炎とともに、パラリンピックを応援する全ての人の熱意は東京で一つとなり(集火)、東京2020パラリンピック聖火が誕生します。そして、東京2020パラリンピック開会に向けて、開催都市東京で聖火リレーが実施されます。
- 出典 東京2020組織委員会HP

福島県パラリンピック聖火フェスティバルとパラリンピック聖火リレー全体のイメージ





1 福島県パラリンピック聖火フェスティバル

各市町村種火起こし／採火式／県内集火・出立式



- いわき市 相馬市 南相馬市 広野町 楢葉町
- 富岡町 川内村 大熊町 双葉町 浪江町
- 葛尾村 新地町 飯舘村



相馬市

2021年8月2日(月)

相馬光陽パークゴルフ場



種火起こしの方法と思い

相馬市では、スポーツ推進委員会と体育協会の皆さんが水レンズを使用し、太陽光を集めて種火を起こしました。

この種火には、共生社会の実現と、東日本大震災からの復興への思いを込めました。



いわき市

2021年8月10日(火)

いわき市石炭・化石館 ほるる



種火起こしの方法と思い

いわき市では、市が推進する水素エネルギーを活用し、燃料電池車から給電した発火装置を利用して、いわき市の繁栄の基となった常磐炭田の石炭に火を起こし、新旧エネルギーで紡いだ火を種火としました。

コロナ禍で市の種火起こしセレモニーに参加がなかなかった市民の皆さんの思いも込め、パラリンピック聖火リレーに種火を送り出しました。

南相馬市

2021年8月10日(火)

南相馬市民文化会館 ゆめはっと



種火起こしの方法と思い

南相馬市では、東日本大震災からの復興・原発事故で市外への避難を余儀なくされた市民たちの故郷への道しるべとして、神戸市「1.17希望の灯り」から分灯された「3.11希望の灯り」から種火を採りました。

被災地の復興、思いやり、やさしさ、絆などを象徴する「3.11希望の灯り」から種火を採ることで、南相馬市から世界中へ、障がいのあるなしにかかわらず全ての方への思いやりや優しさ、そして感謝の思いを込めました。

広野町

2021年8月10日(火)

広野町二ツ沼総合公園フラワーパーク



種火起こしの方法と思い

広野町では、二ツ沼総合公園で栽培しているバナナの葉や茎に、町内の子どもたちが、マイギリ式と太陽光で種火を起こしました。

この種火には、これまでいただいた多くの復興支援に対する感謝の気持ちと、広野町の復興・創生に向けて躍進する姿を国内及び世界の方々に届けたいという思いを込めました。

楡葉町

2021年8月11日(水)

楡葉町コミュニティセンター



種火起こしの方法と思い

ゼロカーボン宣言をしている楡葉町では、町内の子どもたちや太陽光発電推進に携わる大人が協働して作った空き缶を活用したエコ凹面鏡を使って、グリーンでエコな太陽光を用いた種火起こしにチャレンジしました。

古代ギリシャの聖火の採火に通じる凹面鏡を用いて灯した種火には、持続可能な自然エネルギーを用いることで、かけがえのない故郷の環境を未来へつなぐ思いと、パラリンピックを応援する思いを込めました。

富岡町

2021年8月9日(月)

麓山神社



種火起こしの方法と思い

富岡町では、福島県指定重要無形民俗文化財に指定されている「上手岡麓山(かみておかはやま)神社の火祭り」に倣った方法で起こした御神火から、種火を採りました。

この祭りは、町を代表する夏の祭礼として毎年開催され、東日本大震災と原発事故から8年ぶりに復活しました。2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止を余儀なくされましたが、今回はその方法に倣って起こした御神火から採った種火に、祭礼の後世への継承と、コロナ禍の終息、そして終息の暁には、この祭礼をまた皆さんに御覧いただきたい、そんな強い思いを込めて送り出しました。

川内村

2021年8月11日(水)

川内村総合グラウンド



種火起こしの方法と思い

川内村では、戦後、スポーツに希望を託し、新しい村づくりを目的に始まった「川内村夏季野球大会」が毎年お盆の8月13日～14日に行われ、通称「盆野球」と呼ばれ地域に根付いています。今回は、スポーツ少年団の子どもたちに川内村への願いや思いを短冊に書いてもらい、2021年で74回目を迎える盆野球の参加チームの代表者の皆さんが、その短冊に火を着け、種火を起こしました。

新型コロナウイルス感染症拡大による、先が見えない不安や絶望を、スポーツの力が明るい未来に導いてくれるよう、また先人たちが受け繋いだ夏季野球大会の「火」が川内村の子どもたちにつながるよう、種火に願いを託しました。

大熊町

2021年8月10日(火)

頭森公園広場



種火起こしの方法と思い

大熊町では、町に帰還している唯一の中学生・高校生の兄弟が、マイギリ式で火を起こし、「町の木」に制定されている「縦木（もみのき）」で護摩の焚き上げをして種火を起こしました。

大熊町の縦木は、大正12年の関東大震災の後、建築資材として東京に運ばれたこともあったそうです。今回はその縦木で起こした種火に復興への思いを込め、東京2020パラリンピックへと送り出しました。

浪江町

2021年8月6日(金)

道の駅なみえ



種火起こしの方法と思い

浪江町では、2021年にグランドオープンした道の駅なみえ内にある「なみえの技・なりわい館」で、町の伝統工芸品「大堀相馬焼」の窯から種火を採りました。
東日本大震災に伴う原発事故により、20軒以上あった大堀相馬焼の窯元は全てが町外避難を余儀なくされましたが、約半数の窯元が各地で再建を果たし、2021年3月道の駅なみえにも工房が設けられました。今回は、この工房の窯の初めての火入れに合わせて種火を採りました。
逆境を乗り越え、伝統を後世へつないでいくという思いをこの種火に込めました。

双葉町

2021年7月1日(木)

ふたば幼稚園



種火起こしの方法と思い

双葉町では、ふたば幼稚園の子どもたちが、2021年3月25日に町内で開催された聖火リレーの写真を基に「火」を描き、その作品を種火としました。

この絵には、いまなお全町避難が続いている双葉町の復興への思いを込めました。

葛尾村

2021年8月7日(土)

葛尾村役場



種火起こしの方法と思い

葛尾村では、盆踊りの際に復興への祈りを込めて展示する灯籠から種火を採りだしました。灯籠は郡山女子大学が復興への祈りを込めて作成しました。

種火には、10年前の東日本大震災と原発事故からの葛尾村の復興への思いを込めました。

新地町

2021年8月11日(水)

新地町文化交流センター



種火起こしの方法と思い

新地町では、新地町のオリンピック聖火リレースタート地点である観海堂(かんかいどう)公園に、町の子どもたちが作ったオリジナルキャンドルを並べ、キャンドルに灯した火を種火として採りました。このオリジナルキャンドルの作成には、町の地域団体「みらいと」の皆さんも携わりました。

子どもたちが未来への思いを込めて灯した希望の火が、新地町から全国へ、そして世界に届くよう願いを込め、種火を送り出しました。

飯舘村

2021年8月11日(水)

飯舘村交流センター「ふれ愛館」



種火起こしの方法と思い

飯舘村では、「復興」「再生」「希望」と名付けた3つの火を合わせて種火としました。「復興」の火は、村の鍛冶屋が鉄を叩き続けることで生じた熱から、「再生」の火は、村の再生エネルギー発電事業者が太陽光パネルから発電した電気を利用した着火装置から、そして、いいたて希望の里学園では、復興ありがとうホストタウンの相手国ラオスへの思いなどを綴ったメッセージカードで炎の絵を形作り、「希望」の火としました。3つの火は、村の地域おこし協力隊でキャンドル作家が作成した大きなオリジナルキャンドルに灯され、飯舘村の種火となりました。飯舘村の多くの場所や人が関わることで、村の様々な魅力を感じてもらいたいとの思いを込めました。

浜通りの火 採火式

2021年8月12日(木)

ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ



浜通り13市町村が起こした種火



種火が紹介され聖火台に灯される



「浜通りの火」の誕生



採火者 佐藤聡さんが聖火台から火を採る



採火者 齋藤春香さんが持つランタンに「浜通りの火」が灯る



ステージプログラム ハーラウ・ラウラーナニ



※採火式は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため無観客で開催されたが、当初計画していたステージプログラムを式典後に実施し、撮影した動画を県HPに掲載した。

参加市町村

福島市	郡山市	白河市	須賀川市	二本松市	田村市
伊達市	本宮市	桑折町	国見町	川俣町	大玉村
鏡石町	天栄村	西郷村	泉崎村	中島村	矢吹町
棚倉町	矢祭町	塙町	鮫川村	石川町	玉川村
平田村	浅川町	古殿町	三春町	小野町	



福島市

2021年8月13日(金)

街なか広場



種火起こしの方法と思い

福島市では、市在住パラリンピアンや障がいのある方、ホストタウン相手国であるスイス、ベトナム出身の方など12名が参加し、マイギリ式により種火を起こしました。

種火には、将来に向け共生社会実現への願いを込めて、様々な立場の方が分け隔てなく対等な関係で助け合い、共に生活できる社会実現への思いを込めました。



郡山市

2021年8月11日(水)

大安場史跡公園



種火起こしの方法と思い

郡山市では、国指定史跡である大安場史跡公園で、当時を再現したマイギリ式火起こしにより種火を起こしました。「SDGs未来都市こおりやま」の地で、障がいのある方もない方もともに火起こし体験を行い、共生社会への理解を高めました。

種火には、誰もが手を取り合う共生社会を未来へつなげようという強い思いを込めました。

須賀川市

2021年8月11日(水)

二階堂神社



種火起こしの方法と思い

須賀川市では、伝統的な火祭り「松明あかし」の御神火奉授の手法を再現し、その火から種火を採りました。

須賀川市の福祉の基本理念「みんなで作る 地域共生社会すかがわ」を目指し、400年以上の伝統を誇る「松明あかし」のような、持続可能な共生社会実現への思いを込めました。

白河市

2021年8月11日(水)

白河小峰城 城山公園



種火起こしの方法と思い

白河市では、白河小峰城が築城された時代の、火打石を使った手法により種火を起こしました。

市のシンボルとして市民に親しまれる小峰城は、東日本大震災で被災した石垣が8年の歳月を経て美しい姿に蘇りました。復興の象徴であるこの場所で起こした種火には、夢と希望を与えるパラリンピックの希望の灯となるよう、願いを込めました。

二本松市

2021年8月11日(水)

生活介護事業所 菊の里



種火起こしの方法と思い

二本松市では、社会福祉法人あおぞら福祉会の生活介護事業所 菊の里 と就労継続支援B型事業所 工房はっちの皆さんが、凸レンズ等を利用して太陽光を集めて種火を起こしました。種火起こしに参加された方には、全国障がい者スポーツ大会に出場している方もおり、二本松市を代表する選手から世界に向けて多様性の種火を届けました。

種火には、「多様性を認め合う」ことの大切さ、誰もが生きやすく、幸せを感じられる社会の実現に向けた思いを込めました。

田村市

2021年8月11日(水)

グリーンパーク都路



種火起こしの方法と思い

田村市では、市を代表する夏祭りの一つでもある「都路灯まつり」の竹灯を再現し、都路中学校の代表生徒2名がその火から種火を採りました。

都路灯まつりは約1万本の竹筒に火が灯される神秘的で幻想的な優しい火が特徴で、これまで、多くの方々に感動と勇気を与えてきた希望の灯です。東京2020パラリンピックが多くの方々に希望を届ける時間となるようにという願いを込めました。

本宮市

2021年8月3日(火)

本宮市ふれあい夢広場



種火起こしの方法と思い

本宮市では、市内の障がい福祉事業所の皆さんと、本宮高校の生徒が、マイギリ式火おこし棒、火打石で起こした火により、夢や願い事を書いた短冊を燃やし、その火を英国庭園フラワーフェスティバルで制作したローソクに灯し種火としました。

障がいのある方とそうでない方の共同作業による共生の火とし、「復興ありがとうホストタウン」の相手国である英国との絆を込めて、東京2020パラリンピックの成功とアスリートたちの健闘を祈りました。

伊達市

2021年7月17日(土)

伊達市立保原小学校



種火起こしの方法と思い

伊達市では、市内で行われたオリンピック講演会・陸上教室に参加した小学校5・6年生の児童たちが、マイギリ式で種火を起こしました。

この種火には、オリンピック・パラリンピック選手の活躍を折り、伊達市から応援するという気持ちを込めました。

桑折町

2021年8月12日(木)

桑折町屋内温水プール・多目的スタジオ「イコーゼ！」



種火起こしの方法と思い

桑折町では、町の未来を担う町内各地区の小学生が集まり、共同でマイギリ式により種火を起こしました。

種火には、新型コロナウイルス感染症の早期終息と、障がいのあるなしにかかわらず支え合う共生社会への思いを込めました。

国見町

2021年8月12日(木)

国見町観月台文化センター屋外ステージ



種火起こしの方法と思い

国見町では、ふるさとに愛着を持ち、元気な国見町を県内外に発信する「国見ジュニア応援団」の児童生徒が、マイギリ式により種火を起こしました。

種火には、ジュニア応援団の児童生徒が、共生社会の実現に向けて、自ら考え、判断し、行動を起こすことができるジュニアリーダーを目指していくという思いを込めました。

大玉村

2021年8月11日(水)

まちなか ふれあい かよい路



種火起こしの方法と思い

大玉村では、村内の障がい福祉事業所「ふれんどりー大玉」及び「ふあいんばる大玉」の皆さんが、共生社会に関する思いや東京2020パラリンピックへのメッセージを記入した短冊を燃やし、種火を起こしました。

種火には、障がいのある方もない方も、ともに分け隔てなく暮らしていける、共生社会の実現に向けた思いと、東京2020パラリンピックの成功への願いを込めました。



川俣町

2021年8月12日(木)

川俣町体育館



種火起こしの方法と思い

川俣町では、町内の子どもたちが、現在、発掘中の縄文時代の前田遺跡になぞらえ、マイギリ式により種火を起こしました。

原発事故から10年を経過した川俣町のさらなる復興を祈念し、川俣町の将来を担う子どもたちと共同で取り組むことで共生社会の実現への思いを込めました。

鏡石町

2021年8月9日(月)

鏡石町構造改善センター



種火起こしの方法と思い

鏡石町では、町内でパラスポーツに取り組む「TEAMまきぼの朝」の皆さんが、マイギリ式により種火を起こしました。

種火には、スポーツを通して「世代や立場を超えて地域住民が共に支えあう地域づくり」が実現されることへの願いを込めました。

天栄村

2021年8月11日(水) 天栄村屋内運動場



種火起こしの方法と思い

天栄村では、村内小中学校の児童生徒の代表が、マイギリ式により種火を起こしました。

起こした種火は、天栄幼稚園の園児が作成したパラリンピックカラーである赤・青・緑のキャンドルへ灯され、村内の小中学生が書いた、共生社会の実現への思いや、パラリンピックの成功、選手への応援メッセージなどが書かれたメッセージカードの前で、種火にそれらの思いを込めました。



泉崎村

2021年8月11日(水) 泉崎資料館



種火起こしの方法と思い

泉崎村の種火は、村内で活動するスポーツ少年団の子どもたちが協力しマイギリ式で火を起こし種火としました。

種火にはスポーツの力によりパラリンピックの成功と新型コロナウイルス感染症が早期収束するようにとの願いを込めました。



西郷村

2021年8月11日(水) 福島県立西郷支援学校



種火起こしの方法と思い

西郷村では、西郷支援学校の皆さんがマイギリ式で種火を起こしました。

この種火には、トップアスリートたちが輝くパラリンピックの成功と、共生社会の実現に向けた希望の灯(あかり)となるように、という思いを込めました。



中島村

2021年8月5日(木) 特別養護老人ホームひかりの里



種火起こしの方法と思い

中島村では、村の特別養護老人ホームの皆さんと、児童館の子どもたちが協力してマイギリ式で種火を起こしました。種火起こしには村イメージキャラクターなまじょうさんも協力してくれました。

この種火には、パラリンピックの成功と新型コロナウイルス感染症の終息への思い、そして不安を抱えてしまいがちな暗い世の中をこの火が照らし、明るい未来が来るように、という願いを込めました。



矢吹町

2021年8月11日(水)

矢吹町大池公園



種火起こしの方法と思い

矢吹町の種火は、「水・花・緑が香る公園」がテーマの四季折々の魅力が楽しめる大池公園を会場に、町の夏祭りのかがり火を再現し、種火を採りました。

この種火には、全ての人が平等で平和に毎日の生活が送れますように、との願いを込めました。

矢祭町

2021年8月11日(水)

矢祭山親水広場



種火起こしの方法と思い

町名の「矢祭」の名は八幡太郎義家(源義家)が奥州征伐の際、山籠の神社に矢を奉納したことに由来していると言われています。矢祭町では、マイギリ式により火をおこし、伝説にちなんだ「矢」に火を移しそこから種火を採りました。

種火には、障がい者が安心して生活できる社会、活躍できる社会になってほしい、最後まで諦めずにゴールをめざしてほしい、との願いを込めました。

棚倉町

2021年8月10日(火)

ルネサンス棚倉



種火起こしの方法と思い

棚倉町では、同じ北緯37度に位置するオリンピック発祥の地ギリシャのスパルタと、昭和61年から友好都市の提携をしている繋がりがあることから、パルテノン風の建物があるルネサンス棚倉の敷地内で、棚倉町シンボルキャラクターたなちゃんが、凹面鏡により太陽光で種火を採りました。

住民が相互に尊重し協力し合い、家族や地域でのつながりを大切に、ふるさとの歴史や文化、自然環境を守り愛着を持って安全安心で健やかに暮らすことを目指す棚倉町の思いを込めました。

埴町

2021年8月10日(火)

障がい者支援施設ウッドピアはなわ



種火起こしの方法と思い

埴町では、町内で障がい者支援施設を運営するNPO法人ウッドピアはなわの皆さんがマイギリ式により種火を起こしました。

種火には、障がい者が生き生きと暮らせる社会の実現や、男女差別のない社会の実現への思いを込めました。

鮫川村

2021年8月11日(水)

赤坂館 頂上



種火起こしの方法と思い

鮫川村では、かつて赤坂城というお城があった鮫川村市街を一望できる「赤坂館」の頂上で、村内の障がい者支援施設の皆さんがマイギリ式により種火を起こしました。

障がいのある方もない方も協力して火を起こすことで、障がいのあるなしにかかわらず活躍できることを再認識するとともに、種火には、今後のさらなる共生社会の発展への願い、そして、パラリンピックで日本を代表して躍動する選手たちへのエールを込めました。

玉川村

2021年7月16日(金)

森の駅 yodge



種火起こしの方法と思い

玉川村では2021年7月18日にオープンした観光交流施設「森の駅 yodge」で、玉川村産の木材を用いたスウェーデントーチに灯した火から、村内で活動するパラスリット2名が火を採り、玉川村の種火としました。

種火には、共生社会の実現への祈り、世界平和への祈り、新型コロナウイルス感染症の早期収束と1日でも早くマスクのない日常に戻れるよう祈りを込めました。

石川町

2021年8月11日(水)

愛恵自立支援センター



種火起こしの方法と思い

石川町では、社会福祉法人やまがが震災後にスタートしたパン工房「ペーカリーあい」で働く皆さんと、障がい者通所事業所愛恵自立支援センターの皆さんが協力して、マイギリ式で種火を採りました。

町民の皆様にもとてもおいしいと評判のパンですが、運営や製造、販売を障がい者が主体となり行っています。皆さんが協力して起こした種火には、障がい者の社会参加、共生社会の推進への思いを込めました。

平田村

2021年8月11日(水)

障がい者支援施設 だんでらいおん



種火起こしの方法と思い

平田村では、NPO法人がんばろう会の障がい者支援施設だんでらいおんの皆さんが、マイギリ式により種火を起こしました。

この種火には、パラリンピックの主役である障がいのある方の活躍への熱い思いと、パラリンピックの成功への願いを込めました。

浅川町

2021年7月29日(木) 浅川町中央公民館



種火起こしの方法と思い

浅川町では、浅川町身体障がい者福祉会の皆さんが見守る中、町内の小学生がマイギリ式での種火起こしにチャレンジしました。

オリンピック・パラリンピックが競技に関する人々だけでなく、幅広い人々に関心を持ってもらえるよう、その願いを種火に込めました。

三春町

2021年8月6日(金) 障がい者就労支援施設 桜工房



種火起こしの方法と思い

三春町では、NPO法人桜こまちが運営する障がい者就労支援事業所桜工房で、竹炭をつくるための窯の火から種火が採りだされました。

種火には、障がい者就労支援事業所での活動が広くPRされることで、共生社会への理解と実現が進むよう願いを込めました。



古殿町

2021年8月10日(火) 農業集落多目的集会施設 大網庵



種火起こしの方法と思い

古殿町では、イメージキャラクターのやぶさめくんが古殿町産の「古殿杉」を使って、種火を起こしました。種火には、障がいのある方、ない方といった垣根がない社会となることへの願いを込めました。

小野町

2021年8月12日(木) 障がい者支援センタープラスこまち



種火起こしの方法と思い

小野町では、NPO法人ほっと障がい者支援センタープラスこまちの皆さんが、町木である杉の間伐材にマイギリ式で火をつけ、種火を採りました。

種火には、多様性を尊重し障がいのあるなしにかかわらず、全ての人が共に支え合って生きる共生社会の実現に向けた願いを込めました。



中通りの火 採火式

2021年8月13日(金)

福島市農村マニファクチャー公園「四季の里」



中通り29市町村が起こした種火



「中通りの火」の誕生



採火者 千葉麻美さん



採火者 齋藤朱さん



ランタンに「中通りの火」が灯る



ステージプログラム

飯坂八幡神社祭り太鼓保存会



※採火式は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため無観客で開催されたが、当初計画していたステージプログラムを式典後に実施し、撮影した動画を県HPに掲載した。

会津若松市 喜多方市 下郷町 檜枝岐村 只見町 南会津町
 北塩原村 西会津町 磐梯町 猪苗代町 会津坂下町 湯川村
 柳津町 三島町・金山町・昭和村 会津美里町



喜多方市

2021年8月9日(月)

福島県立喜多方桐桜高校



種火起こしの方法と思い

喜多方市では、喜多方桐桜高校の生徒達が学ぶ「工業」の知識や技術を生かし、SDGsの視点に立ち、廃材や身近なものを使った環境に優しい火を起こすプロジェクトチームを立ち上げました。
 機械科の生徒が壊れた自転車を使い発電装置を、電気・電子科の生徒がシャープペンの芯を使い発火装置を、建設科の生徒が木くずから木のトーチをそれぞれ作り、生徒が渾身の力で車輪を回し、放電技術により熱を火花に変えて、採火トーチに灯し種火としました。

生徒の皆さんが願う持続可能な社会の発展と、共生社会の実現への思いが込められた種火となりました。

会津若松市

2021年8月13日(金)

株式会社グリーン発電会津



種火起こしの方法と思い

会津若松市では、山林未利用材を使用した木質バイオマス発電の炎から種火を採りました。
 木質バイオマス発電は「カーボンニュートラル」と言われ、SDGs達成に資する資源循環型エネルギーです。種火は、緑に親しみ、守り育てる活動を通じて、郷土に貢献する活動に取り組む市立大戸小学校「緑の少年団」のメンバーが採りました。

この種火には、未来に向けて、美しい地球環境を守り継いでいこうというメッセージを込めました。



下郷町

2021年8月6日(金)

中山花の郷公園



種火起こしの方法と思い

下郷町では、社会福祉法人南陽会下郷作業所ホイップと日本夜景遺産「なかやま雪月火」を運営する中山行政区が、凸レンズを用いて太陽光からそれぞれ種火を起こしました。
 種火は一旦、町特産のえごま油を燃料とするアルコールランプに移し、そこから、各代表がそれぞれの種火をランタンへ灯し、下郷町の火としました。

種火には、障がい者との共同作業による共生社会の実現、町特産品を用いることによる地域の発展など、さまざまな願いを込めました。



檜枝岐村

2021年8月6日(金)

檜枝岐村ミニ尾瀬公園



種火起こしの方法と思い

檜枝岐村では、尾瀬を気軽に体験できる「ミニ尾瀬公園」で、東北一の高さを誇る百名山燧ヶ岳を背景に種火起こしを行いました。
種火は、村の名前の由来にもなっている「檜」を使った伝統工芸品「曲げ輪」の端材を使って、地元小学生が火打ち石での火起こしに挑戦しました。

種火には、東京2020パラリンピックの成功と、新型コロナウイルスの終息への願いを込めました。

南会津町

2021年7月23日(金)

障がい者支援施設 あたご共同作業所



種火起こしの方法と思い

南会津町では、NPO法人あたごの皆さんが、日々の活動で加工・製造している南会津産の「杉割り箸」の材料を用いて種火を起こしました。

共生社会実現に向けた東京2020パラリンピックにおける聖火フェスティバルに、施設利用者全員で参加することで、これからの仲間づくりと、地域社会のなかでの生きがいづくりにつなげていきたいという願いを込めました。

只見町

2021年8月13日(金)

旧長谷部家住宅



種火起こしの方法と思い

只見町では、県指定重要文化財である「旧長谷部家住宅」の囲炉裏で、町で伝統的に作られていた「かじご焼き」という炭に、先人が使用していた民具を使用して火を起こし、その囲炉裏の火から種火を採りました。

自然と人々の共生、その中で育まれた豊かな文化が認められ、ユネスコエコパークに認定されている只見町。自然の恵みと先人の知恵との結晶である炭から採火した種火に、持続可能な社会の発展と、共生社会の実現への願いを込めました。

北塩原村

2021年8月12日(木)

会津山塩企業組合工場



種火起こしの方法と思い

北塩原村の種火は、「会津山塩」を製造する薪窯の火を採りました。
会津山塩は、かつて会津藩や皇室に献上するなど製造が盛んでしたが、昭和20年代に塩の専売化により製造が途絶えました。しかし、会津山塩を復活させようと地元有志が立ち上がり、平成17年に復活を遂げ、以後村の特産品として欠かせないものとなりました。

この種火には、地域住民の共生社会への願いや、困難を乗り越え立ち上がる「復興」へのメッセージを込めました。

西会津町

2021年8月3日(火)

障がい者支援施設 西会津町授産場



種火起こしの方法と思い

西会津町では、社会福祉法人西会津町授産場の皆さんの共同作業により、施設で使用しているガス溶接機から種火を採りました。
施設ではガス溶接機を用いて車のブレーキランプの組立や加工などを手分けして行い、年間数十万個を加工するほか、様々な活動を通じて障がいのある方が活躍しています。

この種火には、世界平和と共生社会を願い、障がいのある方の活躍への思いを込めました。



猪苗代町

2021年8月13日(金)

磐梯神社



種火起こしの方法と思い

猪苗代町では、町の伝統のまつり、「磐梯まつり」の御神火(ごじんか)から種火を採りました。磐梯まつりは、明治21年7月15日の磐梯山噴火で殉難された方々の追悼と供養を目的に昭和23年から始まり、以来地元住民が大切に継承し発展してきました。

その御神火に込められた二つの心、一つは噴火で亡くなった方の「魂を慰める心」、もう一つは新たなものを生み出す自然とそれを守ってきた先人への「誕生に感謝する心」、二つの思いを種火に込め、送り出しました。



磐梯町

2021年8月13日(金)

磐梯町慧日寺金堂



種火起こしの方法と思い

磐梯山の懐に抱かれる豊饒あたたかなこの地は、万葉集に詠まれた「会津嶺の国」の郷として発展し、いにしえからの山岳信仰に基づいたさまざまな営みが現在に継承されています。そうした背景のもと、平安時代初期に高僧徳一により創建された慧日寺も、明治初めの廃寺に至るまで一千年余の歴史を重ねました。廃寺後の広大な寺跡は昭和45年に国の史跡に指定され、現在町による史跡整備事業が行われています。磐梯町では、その一環として平成20年に復元した金堂に灯された灯明から種火を採りました。

この種火には、共に支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会の実現とお互いが分かり合える、こころのバリアフリーを磐梯町から実行しようという思いを込めました。



会津坂下町

2021年7月7日(水)

栗村稻荷神社



種火起こしの方法と思い

会津坂下町では、町の伝統文化である「早乙女踊り」を継承している会津農林高校の生徒の代表と町長が、栗村稻荷神社の御田植祭の神事の際に、神社の灯明から種火を採りました。

早乙女踊りを後世まで受け継いでいくため、早乙女踊りに関係する皆さんの思いと、令和2年度コロナ禍により早乙女踊りを披露することができなかった卒業生の思いを込め、全国の皆さんに届くよう送り出しました。



湯川村

2021年7月30日(金)

湯川村公民館



種火起こしの方法と思い

湯川村では、湯川中学校の生徒がマイギリ式で種火を起こしました。

村の宝である子どもたちが、健やかに成長し、それぞれの夢を実現できるように未来への願いを種火に込めました。

三島町・金山町・昭和村

2021年8月6日(金)

三島町生涯学習センター「森の校舎カタクリ」



種火起こしの方法と思い

三島町、金山町、昭和村は、3町村合同で種火を起こしました。3町村の小学4～6年生が参加する合同行事の中で、昭和村の「からむし」、三島町の「桐」を火口に、マイギリ式火起こし器で火を起こし、その火を金山町の「漆ろうそく」へ移すことで、3町村の特産品・伝統文化を生かした種火としました。

それぞれの文化を持ち寄り、子どもたちが協力して火を起こすことで、絆を深めるとともに、パラアスリートのように、今自分たちが置かれている状況をポジティブなものとして捉え、お年寄りから子どもまで心地よく過ごせる地域づくりを目指していききたいという願いを込めました。

柳津町

2021年8月13日(金)

福満虚空藏菩薩圓藏寺



種火起こしの方法と思い

柳津町では、疫病退散の願いがこめられた「赤べこ伝説」発祥の寺「圓藏寺」で、13日の縁日に御祈祷した際の灯明から種火を採りました。

種火には、一日も早くコロナ禍が終息し、人と人との交流ができる平和な世界が戻ること、また、浪々と流れる只見川の豊かな水と、広大な森林を持つ奥会津の大自然とともに、美しい地球が永く続くことへの祈りを込めました。

会津美里町

2021年8月5日(木)

会津美里町役場



種火起こしの方法と思い

会津美里町では、古代の火起こしの道具を使用し、子どもたちに過去の火起こしを体験・学習する機会を提供しながら、種火を起こしました。

種火には、この行事を通じて子どもたちのパラリンピックへの興味・関心が高まり、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合えるような豊かな人間性を育んでもらいたいという願いを込めました。

会津の火 採火式 2021年8月14日(土) 亀ヶ城公園



会津17市町村が起こした種火



「会津の火」の誕生



採火者 佐藤智美さんが聖火台から火を採る



採火者 権瓶顕太郎さんが持つランタンに「会津の火」が灯る



ステージプログラム 会津猪苗代太鼓 猪駄天



※採火式は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため無観客で開催されたが、当初計画していたステージプログラムを式典後に実施し、撮影した動画を県HPに掲載した。

県内集火・出立式

2021年8月15日(日)

開成山陸上競技場



浜通り・中通り・会津の火



佐藤聡さん・千葉麻美さん・佐藤智美さんが3つの火を1つに集火し「福島県の火」が誕生



福島県代表者 増子恵美さんにパラリンピック聖火リレートーチが手渡される



「福島県の火」の採火



ステージプログラム

Dance Studio Vivid



※集火・出立式は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため無観客で開催されたが、当初計画していたステージプログラムを式典後に実施し、撮影した動画を県HPに掲載した。

採火者

県内全市町村の種火を3地域ごとに集めた「採火式」で「浜通りの火」「中通りの火」「会津の火」を採火した

■ 浜通りの火



齋藤 春香さん

福島県立相馬支援学校高等部



佐藤 聡さん

パラリンピアン（車いすバスケットボール）
2008年北京大会、2012年ロンドン大会出場。郡山市出身。

■ 中通りの火



齋藤 朱さん

福島県立たむら支援学校高等部



千葉 麻美さん

オリンピック（陸上競技）
2008年北京大会出場。陸上女子400m日本記録保持者。東京2020オリンピック聖火ランナー。矢吹町出身。

■ 会津の火



権瓶 顕太郎さん

福島県立会津支援学校高等部



佐藤 智美さん

世界パラ陸上日本代表（2013年、2017年）陸上女子100m（T13クラス）日本記録保持者。二本松市出身。

福島県代表者

本県を代表して「福島県の火」を全国集火式に届けた

（※新型コロナウイルス感染症の影響により、全国集火式への各都道府県代表者の出演はバーチャル出演となった）



増子 恵美さん

パラリンピアン（車いすバスケットボール）
1996年 アトランタ大会出場
2000年 シドニー大会銅メダル
2004年 アテネ大会出場
2008年 北京大会出場
（公財）福島県障がい者スポーツ協会所属
三春町出身

福島県代表聖火ランナー

本県を代表する聖火ランナーとして開催都市内聖火リレーに参加

（※新型コロナウイルス感染症の影響により、公道での聖火リレーに代えてセレブレーション会場での点火セレモニーとなった）



星野 千尋さん

福島県立いわき支援学校高等部



Photo by Tokyo2020

2 福島を思いをつないで

都内集火式／全国集火式／聖火リレー／パラリンピック開会式・閉会式



Photo by Tokyo2020/Shugo TAKEMI

都内集火式

2021年8月20日(金)

東京都庁都民広場



東京都内62区市町村で採火された火から「東京都の火」が誕生した都内集火式の会場は、東日本大震災の被災3県から、福島県の花、宮城県の花飾り、岩手県の高校生が作成した大漁旗で彩られ、福島県で使用された聖火台も使用された

全国集火式

2021年8月20日(金)

迎賓館赤坂離宮



Photo by Tokyo2020



Photo by Tokyo2020



Photo by Tokyo2020

全国47都道府県の火が集められ、パラリンピック発祥の地であるイギリスのストーク・マンデビルの火とともに一つになり、「パラリンピック聖火」が誕生した

開催都市内聖火リレー

2021年8月21日(土)

都立葛西臨海公園 第三駐車場



都内で行われた聖火リレーでは、福島ของ思いが込められた聖火を手に、星野千尋さん(福島県代表聖火ランナー)が走行した

パラリンピック開会式・閉会式

2021年8月24日(火)・9月5日(日)

国立競技場



聖火は開会式で国立競技場の聖火台に点火された。日本全国から思いを込められ誕生した炎はパラリンピックの閉幕とともに役目を終え、モニターには「ARIGATO」の文字が浮かび上がった

